

1. 環境教育・環境学習の現状

豊かな自然に恵まれた八王子の環境を守り育て、私たちの身近な環境をより良くしていくためには、まずは一人ひとりが環境について考え、環境保全に対する意識を高め、自ら積極的に取り組んでいくことが大切です。

こうした生活の様式や習慣などを子どもの頃から意識付けすることはとても重要と考え、自然体験講座など地域に根ざした環境教育・環境学習を推進しています。また、環境教育・環境学習は、地域住民が一体となって環境への取り組みを推進するための基盤となります。

そこで、環境学習や環境保全活動の拠点である「エコひろば」では、環境啓発の講座や小学校への環境教育を支援する事業、環境に係る情報提供など、様々な事業を展開しています。

2. 環境教育・環境学習の取り組み

(1) 環境学習の推進

ア. 環境の拠点

市民・事業者が環境について関心を持つきっかけづくりと、環境保全活動団体などが地域に根差した活動を展開するための活動拠点として、17年1月、北野余熱利用センターに環境学習室「エコひろば」を開設しました。

環境に関わる講座やイベントなどを開催し、入場者は前年度より約3,000名も増加し、延べ22,636名が入場しました。

また、環境に関する図書や器材の貸し出しなども行っています。



恒例の「こども環境まつり」



「ちえっくどう」

イ. 人材育成と環境指標

(ア) 環境診断士と環境指標「ちえっくどう」の普及・活用

市民・事業者が自ら環境について調べ、行動していくための手引書である身近な環境診断「ちえっくどう」を用いて環境診断を行う際に指導・助言するための人材として14年度から環境診断士を養成し、約40名の皆さんが活躍しています。

環境診断士は、環境市民会議のメンバーとして地域に根ざした環境保全活動を行っているほか、環境フェスティバルでは、来場者の内の500名を対象に、「ちえっくどう」(簡易版)を用い、市民の皆さんの身近な環境診断を行いました。

また、その結果から、個人を対象にエコに関するアドバイスも行いました。

(イ) 環境学習リーダー

環境市民会議の活動を適切に支援する人材として、環境診断士と同様、14年度から環境学習リーダーを養成し、既に150名以上の皆さんが活躍しています。

現在、各地区の環境市民会議に分かれ、その地区の特色を生かした様々な環境保全活動をリードするほか、小学校を対象に実施している環境教育支援等でも積極的に参画しているところです。

(2) 環境学習・啓発活動の展開

農業体験では、市内の農家を訪問して、いろいろな農作物の収穫体験を通して、農家との交流を深めることができる農業ツアーを7月21日に行い、12組24名が参加しました。

林業体験では、その一環として、12月1日に植物の根を土で包み表面にこけを巻きつけたこけ玉作り等に24名が参加しました。

また、町会・自治会、多摩川漁協八王子支部、河川管理者、教育機関及び本市で組織する『八王子浅川子どもの水辺協議会』では、「ガサガサ探検隊」や「水辺のかんきょう教室」を開催し270名の参加がありました。

このほか、地域の自然環境を身近に感じてもらうと、市と環境市民会議が協働で「自然体験講座」を計10回実施し、延べ267名が参加しました。また、学習会などに市の職員が講師として伺い、講義や説明をする「はちおうじ出前講座」の環境関連の講座では、「自然は友だち」、「ごみの減量とリサイクル」、そして「サルとの知恵くらべ八王子に生息する動物たち」など8講座を開講して環境教育・環境学習を支援し、環境意識の向上を図りました。



浅川での自然体験講座

■環境分野の主な出前講座

講座名	内容	参加人数
ごみの減量とリサイクル	ごみ・資源物の分別、発生抑制の説明及びDVD上映	2,846人
自然は友だち	本市のみどりや生息・生育する動植物を紹介し、みどりを守ることの大切さと、身近なみどりの抱える問題をわかりやすく説明	372人
サルとの知恵くらべ 八王子に生息する動物たち	八王子の小動物の生態及びサルの生活	26人

「はちおうじの環境をみる・きく・考える」をメインテーマに、産・官・学・民の協働・連携のもと、6月4日に「2012 八王子環境フェスティバル」を八王子駅北口西放射線ユーロードと南口とちの木デッキ上、南口総合事務所多目的スペースにおいて開催し、延べ45,000人の来場者でにぎわいました。

当日は、お茶犬によるバラエティショーや、来場者に乗せて会場内を走る燃料電池機関車などで、環境に触れあいながら一日楽しんでいただきました。



にぎわうブース

(3) 環境教育の充実

ア. 「学校教育における環境教育基本方針」に基づく取り組み

未来を創る子どもたちが、身近な環境とのふれあいから環境に関心をもち、様々な体験を通して環境への理解を深め、環境保全への行動力がもてるよう育成することを目標に「学校教育における八王子市環境教育基本方針（第二次）」を平成22年に策定し、学校において環境教育を推進しています。

この目標を実現させるための取り組みとして、20年度から学校ごとの環境教育全体計画及び年間指導計画に基づいた環境教育の実践を行っています。また、夏季教員向け研修（パワーアップ研修）で、環境教育をテーマにした研修会を実施するとともに、環境教育の小中一貫教育指導資料を活用した研究授業を小・中学校各1回ずつ公開して、教員の環境教育の指導力の向上を図りました。

イ. 環境教育に関する冊子の作成

「学校教育における八王子市環境教育基本方針」に規定された環境教育目標である「環境問題に関心をもち、環境問題を解決する行動力を持った人の育成」を実現するため、『はちおうじこども環境白書』を新たに作成し、市立の小学4年生に配付しました。「みどり」、「ごみ・資源」、「水」、そして「地球温暖化」について、身近な八王子の環境に興味を持ち、自ら取り



環境教育副読本など児童に配付

組めることを考え、学校のみならず家庭での実践につなげることを目指します。

また、これまで同様、ごみの減量やリサイクルの意識を育てるための『きれいなまち八王子』と川への関心を高めるための『川と友だちになるノート』をそれぞれ作成し、配付しました。

(4) 地域との連携による環境教育

「エコひろば」では、市立の小学校の総合的な学習の時間などを使って行われる環境学習において、環境教育支援事業を行っています。これは、地域特性を活かして活動している知識・経験豊かな環境市民会議をはじめ、環境学習リーダーや環境診断士を学校に派遣し支援することにより地域の人材を活かした環境教育の充実を図っています。

24年度は、15校で実施し、延べ471名が支援を行いました。



環境教育支援事業「まとめ発表会」

(5) 環境情報の提供

ア. 「八王子市環境白書」の発行

環境保全等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、市の環境の現状及び環境基本計画に基づく施策の実施状況を明らかにしたもので、毎年発行しています。

また、これらに関わるデータは、データ集として同時発行しています。

イ. 「環境報告書」の発行

市内にある6ヶ所の環境施設について、事業活動における環境配慮の取り組み状況に関する説明責任を果たすため、環境配慮の方針、目標、取り組み内容及び実績を公表しています。

■環境報告を発行している施設

1	北野清掃工場	4	北野下水処理場
2	戸吹清掃工場	5	戸吹不燃物処理センター
3	北野衛生処理センター	6	プラスチック資源化センター

ウ. ホームページによる環境情報発信

市のホームページ(<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>)において、環境情報を提供しています。

エ. 環境学習室「エコひろば」

「エコひろば」でもホームページ (<http://www.ecohiroba.jp/>) を開設し、講座の日程や環境教育支援事業の状況など、環境教育・環境学習に関わる情報を中心に提供しています。

3. 評価

ここでは、「教育・学習」の分野についての評価結果を掲載しています。

(評価の方法については12ページを参照)

評価 : ★★ ほぼ目標を達成した

<市内部での総括評価>

各施策における目標を概ね達成できた中、通常の講座はもとより、農林業体験や自然体験の講座などは目標を大きく上回っており、市民の環境への関心や講座の充実が図れたことなどの結果であり、継続実施していきたい。

次に、発足して10年が経過した環境市民会議では、課題となっている会員の拡充や地元との連携した活動について話し合わせ、その結果を次年度から実施することとなり、その支援に努めることとした。

また、環境マネジメントシステム・L A S - E研修では全職員の8割強が参加、残りの職員へは職場でのフォロー研修を行うなど、環境負荷低減への取り組みが図られた。

なお、環境学習リーダーの養成は延期したが、事業拡充の観点からも次年度に実施することとした。

<環境推進会議での相互評価>

教育・学習については、計画に沿って順調に進んでおり、評価できる。

次に、環境市民会議については、会員の拡大及び活動の拡充への支援、或いは、地域での保全活動を地域と連携できるしくみづくりや、環境学習リーダー養成講座の実施などに努めていただきたい。

また、市役所が市内最大の事業者として積極的にL A S - Eに取り組んでいることから、事業者の模範となるよう、継続して取り組んでいただきたい。